

雑草生態及び除草剤試験に関する研修会に参加して

沖縄県農業研究センター 作物班 大見のり子

今回の研修会には、雑草の生態に関わる情報収集の一環として参加させて頂きました。ご存知の方も多いかと思いますが、沖縄県では冬場でも気温は10℃を下回ることがほとんど無いため、雑草が年中繁茂する環境にあります。また多年草が多く、そのまま放置しておくとも木化したり、大株に育ってしまうため雑草防除はとても重要です。そのような状況にあって、今年は日本植物調節剤研究協会から、初めて甘しょ対象の除草剤試験の依頼があり、この折りに雑草生態や除草剤の効果について改めて見直す良い機会だと捉え引き受けることになりました。

さて、研修会に参加して、まず多くの研究機関から多数の参加者が見えられていることに驚きました。また、その半数以上が水稻関係の除草剤試験であることに納得させられました。本県では水稻が少ないため、これまでサトウキビ

関係の除草剤試験がほとんどだと認識しています。とはいえ、水稻が全くないというわけではありませんから、多くの方々が水田における雑草防除に苦慮していることが認識できて良かったと思います。

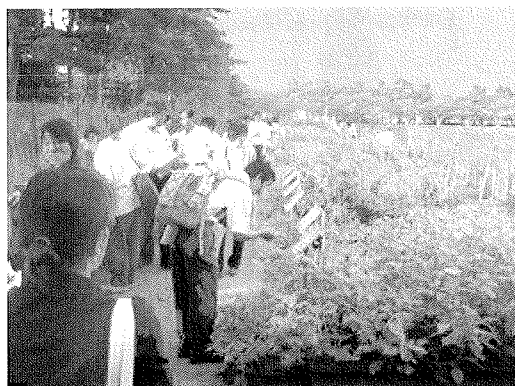
研修会冒頭の挨拶にもありましたが、「除草作業の労力低減の重要性」を誰もが感じていて多くの方々の参加があったことは間違いなさそうです。

それから、主催者である日本植物調節剤研究協会の小川会長がお話されていたと思いますが、「試験の意義を理解し、試験の前処理と準備が大事であることや主観に寄らない科学的なデータ取りとして調査すること」について注意があり、気が引き締まりました。

講義内容については、まず、処理方法には「土壌処理」と「茎葉処理」があり、それぞれ適正な処理時期に散布するよう注意すること、土の中の種子量によって数年後に雑草が多発する事例があること、水田ではSU抵抗性が問題になっていること、畑作の問題として大規模省力化、低コスト化、転作の固定化などがあり、減農薬が出来るほど除草剤の選択肢がないことなどが特に印象に残りました。

それから、畑雑草や水田雑草について、違いや見分け方を学ぶため現物展示を拝見しました。

イヌビユとホナガイヌビユの違いや特徴など



確認畑雑草見本園

について確認できました。

また、イヌホオズキの葉が穴だらけになっている状況も見られ、雑草にも害虫による被害が著しい例があることも確認できました。

研修会2日目の午後は、日本植物調節剤研究協会の研究所を視察させていただきました。ここでは、ライシメーターによる水質試験、水系生態影響評価施設、畑作除草剤試験区の設定と処理について大豆畑の実演、畦間・株間散布機による薬剤散布、非選択性の茎葉処理剤（果樹の下草対応）では草丈や密度によって散布時期に注意すること、プラスチックダンボールを用いた水田試験区の作成と手順、畦畔・休耕田試

験区の設定、セメンポットを用いた水田雑草試験、畑地・水田雑草の葉齢（サンプル）について見学することができました。

今まで雑草といえば、イネ科やキク科など科目くらいでしか判別しておらず、葉齢などステージについてもほとんど考慮してなかったのですが、研修を終えてみると、雑草の多様性や生態など興味深い点がいくつもあり、これからの研究に大変有意義なものとなりました。

最後に、この研修会に参加させて頂く機会が得られたことに、関係機関の方々に深く感謝申し上げます。



畑作除草剤試験区の設定



大豆の畦間処理



畦間・株間散布機



畑雑草の葉齢サンプル